

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社 福祉介護計画		
事業所名	グループホーム猪苗代 1階		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855番地		
自己評価作成日	平成28年 7月20日	評価結果市町村受理日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑に囲まれて自然を満喫できること ・ 定期的にケース会議を開き、利用者様のニーズを抽出しケアプランに反映させて支援している ・ 月1回季節の行事やドライブを兼ねた外出を通して気分転換を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら対応しており、利用者が落ち着いて、ゆったりと自分のペースで生活している。 2. 協力医による往診体制と訪問看護師の24時間オンコール体制が取られており、利用者の健康管理や緊急時の対応など、安心した医療体制となっている。 3. 年間研修計画により研修会が行われており、職員の資質の向上が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所等に提示して職員一同その理念を共有し、利用者様1人1人に対し常に人生の先輩として敬意言葉かけや対応に尊厳を持ち、支援するよう心がけている	地域密着型サービスの意義を踏まえて、「いつまでも自分らしく」「なじみの地域で共に暮らす」と謳い、職員間で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、温泉祭り等に積極的に参加している。また地域の民謡会、蕎麦打ち慰問、節分には保育所の子供による豆まきなど地域との積極的な交流を心がけている	町内会に加入し地域行事(清掃活動や温泉祭り等)に参加し日常的に交流している。また、事業所の行事にボランティア(民謡会・蕎麦打ち・園児の豆まき等)の訪問があり、降雪時の除雪も協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と一緒に奉仕活動をして交流している。又町の高齢者作品展を見学している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、運営推進会議のメンバーから意見をいただきサービスの向上に努めている。利用者様2名も参加して意見をいただいている	運営推進会議が定期的開催され、会議では事業所の取り組み内容や現状について報告し、事故につながりそうな利用者の行動を制止するのではなく、安全に出来るよう見守りを強化するよう委員の意見・助言を頂きサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは連絡を取りながら相談しサービスに生かしながら町の高齢者作品展や敬老会などに参加している	行政担当者とは、日常的に入居相談等で連絡を取ったり、生活保護受給者の手続きや相談でも連携を取り合っている。運営推進会議には毎回参加協力があり、事業所の状況を把握し、質問・意見・提案がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し利用者様が近づくので分かるので職員がすぐ対応する。日中は鍵をかけないケアをしている。身体拘束についてのホーム内勉強会を行い職員全員が統一した意識を持って支援している	職員は身体拘束をしないケアを事業所内勉強会等で学び、実践に努めている。玄関にセンサーを付け、利用者が一人で外出しないよう気を付けている。夜間を除いて玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で内部研修を行い虐待防止に努めている。ケアの手順や内容が虐待としてとられないか職員全体で確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体が理解しているとは言えず 支援体制が十分とは言えない為、今後は勉強会などをしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者様に十分な時間をかけ説明し不安や疑問点を尋ね、理解納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日頃の意見を吸い上げ家族に伝えること、又家族様が面会時に施設に対する要望等を気軽に言える雰囲気作りに努めている	家族が気軽に何でも話せるような雰囲気づくりを心がけて意見の把握に努めている。また、利用者の状況報告等あらゆる機会を通して意向把握をしている。出された意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等に職員の意見や要望を聞き運営に反映させている	毎月行っている全体会議や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。また、管理者は職員が話しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の状況を把握し各自がやりがいや向上心を持って勤務できるように職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度の内部研修は行っているが外部研修は十分とは言えず今後さらに積極的に参加できる体制を整えていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連企業のグループホームとの意見交換やグループホーム協会の研修会等に参加してサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に訪問した際に本人の思いを良く聞き、サービスの内容に反映するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と十分に話し合い、連携を取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が最優先であることを把握し可能な限り本人と家族の思いに柔軟に対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嬉しいこと楽しいこと辛いことを共感しながら支えあう関係づくりに努めている。本人の能力に合わせて本人ができることを職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、誕生会等の機会に良く話をお聞きし家族の思いを受け止めながら入所者様の支援に努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先で馴染みの人に会った時など楽しく会話している。又電話でのやりとりなどで関係をつないでいる。冬の期間は外出できないため今後の課題としている	町内への外出で馴染みの場所へ出かけ知人と出会ったり、家族と床屋や墓参り等に外出したり、これまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間にはスタッフが入りお互いの入居者様同士の会話を盛り上げている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、いつでも連絡いただけるように相談にのり、関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動や会話から意向を聞き絵本を読まれる、歌を歌う、塗り絵をするなどそれぞれ得意なことをしていただいている	日頃の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。各利用者の支援は担当制にしており些細なことでも把握できる体制となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時にこれまでの生活歴をお聞きしケアに反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、介護日誌、申し送り等により日々の変化を把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングし担当者会議で各関係機関と話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を取り入れ、計画作成担当者や居室担当者が中心となりモニタリングし、アセスメントしている。全体会議で職員の意見を取り入れ介護計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等は必ず記録しスタッフ間での情報共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応し柔軟な支援やサービスの提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の奉仕作業(泥上げ人足)への参加や保育園児による豆まきの行事を行ってもらっているなど地域の人たちに協力していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期的な往診体制が整っている。	協力医療機関による往診やかかりつけ医へ継続して通院する等、利用者と家族の希望に沿った適切な医療受診体制がある。通院の受診付添いは主に家族であるため、必要な情報提供を行っている。受診結果はお互いに報告し合ったり、受診記録を送付する事で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期的な訪問看護により入居者様は適切な受診と健康管理が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関との情報交換を密にし本人の状況により入退院の受け入れ体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して家族や医療機関と話し合い、方針を共有化している	利用者や家族に事業所の重度化・看取りに関する指針の説明を行い同意を得ている。状態の変化に伴い、地域の関係者と連携を図りながら、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは応急手当や初期対応の講習を受けるなどして実践力を身につけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に通報訓練、避難訓練、消火訓練などを行い全職員が方法を身につけ地域との協力体制を整えている	消防署立会いのもと地域の消防団員や民生委員が参加し年に2回、総合防災訓練を実施しており、出された改善点は全職員で見直ししている。防災対策について都度職員会議で周知を図っている。水や食材等の備蓄品の準備は整っている。	地域住民との連携を図りながら協力体制を築いているが、あらゆる災害を想定した訓練をより多く実施し、全職員で防災意識を高めていって欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重しプライドを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて利用者に寄り添う介護を意識付けしており、全職員に使用してはいけない言葉を周知するとともに丁寧な言葉づかいに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日々の生活の中から把握し本人が納得できるまで説明などしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせて寄り添った介護をしその中から希望を聞いたり読み取ったりしてその人らしい暮らしができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度理容師さんに来ていただき対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者様の食べたい物を聞いて作り提供し、食器を拭くなどのお手伝いをしていただいている	季節の食材を取り入れ、利用者の好みを反映した献立となっている。野菜の下ごしらえや食後の片付けを職員と一緒にし、食事は同じテーブルを囲み楽しく会話をしながら支援している。そば祭りや誕生会は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合った食事量、水分量の提供をしています。飲み込みが悪い方には刻み食やトロミをつけて提供しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態に合わせて食後は必ず歯磨きをし異常の発見時や痛みの訴え時は歯科受診をしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を生かし1人1人の排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしています	一人ひとりの排泄リズムを把握し、夜間はおむつ使用でも日中はトイレ誘導する等して個別に適切な誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分量を多く摂る、運動量を増やす等、個々に応じた働きかけをしている。又便秘時の対応として医療機関の指示により下剤を使用しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に合わせて入浴できるよう努めている。又いろいろな入浴剤を使用して入浴を楽しんでいただいている	利用者の希望する時間帯に入浴できるよう心がけており、ゆったりと入浴できるよう会話や歌を歌いながらの支援をしている。数種類の入浴剤を準備し、ゆず湯等の季節風呂も行っている。体調を考慮し足浴やシャワー浴をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望により昼寝をしていただいているが昼夜逆転にならない程度にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように複数の職員で用法や用量についてチェックを行い症状の変化等の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態に応じて編み物、塗り絵、山菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ等をしていただき意欲を引き出すようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ季節の移り変わりを楽しんでいる。ドライブなども外出を楽しんでいる	季節毎に花見や紅葉ドライブ、外食等に外出する機会があり、希望により個別に天気の良い時に事業所周辺の散歩をしている。家族協力で墓参りや親戚宅へ出かけている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行い本人の希望によりいつでも引き出せるようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話のやり取りができるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に絵を飾ったり写真を貼ったり季節の花を飾るなど工夫している	皆の集うフロアからは森林を見渡すことができ、利用者の作成した作品等が飾られ家庭的な雰囲気の感じられるスペースとなっている。ソファや座席の配置に気を配り、利用者一人ひとりが落ち着いて居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、テーブル、ソファなどを配置し入居者様同士がよりよい関係を保てるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの家財道具などを持参していただき自宅にいた時と極力近い状態で生活できるよう配慮している	今まで使い慣れたベッドやいすの家具類、お仏壇、家族との写真等を飾ったり、状態により必要な方は介護ベッド使用する等し、その人らしく暮らせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない等の人には部屋の入り口の文字を大きくするなど工夫している。食器も個々のものを持ち込んでいただき分かりやすくしている		